

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会

vol.92
2025.03.01

若手研究者コラムリレー

遠藤 華英 (えんどう はなえ)

プロフィール

同志社大学スポーツ健康科学部 助教
日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域: 体育・スポーツ政策

神奈川県川崎市 出身
2011年 大妻多摩高等学校 卒業
2015年 早稲田大学スポーツ科学部 卒業
2017年 早稲田大学スポーツ科学研究科修士課程 修了
2020年 早稲田大学スポーツ科学研究科 博士後期課程 修了

E-mail: hanae.4fts@gmail.com



↑ ラオスで調査に協力して下さった皆様との一枚

わたしの研究

世界で広がるスポーツ×開発の エビデンスを構築する

私は子供のころから両親の影響でスポーツに親しんでおり、競技レベルは高くありませんが、中学・高校時代はバスケットボールに打ち込んでいました。自然とスポーツに関わる仕事がしたいと思うようになり、最初はトレーナーを目指してスポーツ系の学部に進学しました。しかし、入学直前に東日本大震災が発生し、社会が非常に困難な状況の中で、スポーツが果たして本当に社会にとって重要なものなのか、漠然と疑問に思うようになったことが、今の私に繋がる経験だと振り返っています。

その後、大学生活は大きく変わり、様々な総合型地域スポーツクラブやスポーツチームを訪ね、取材をする中で、途上国といわれる地域で、現地の人々が自由にスポーツに参加できるように活動している日本の方々に出会いました。また、海外ではスポーツプログラムが社会課題を解決するために導入されている事例にも触れ、スポーツが持つ社会的な力に強く引かれるようになりました。

研究を始めると、大変なことも多くありましたが、修士・博士課程では、ラオスやタイ、マレーシアを中心に東南アジア諸国の人々のご縁を頂き、調査フィールドとして現地に赴いてまいりました。研究を行う上で、その国の文化や社会背景を理解することはもちろん、現地の方々とのコミュニケーションがとても大切だと感じています。振り返ると、現地の方々や開発に携わる方々に支えられながら、ようやく実施できた研究だと思います。その分、これからも現地の人々に貢献できるよう、精一杯研究に取り組んでいきたいと思っています。

わたしの渾身の論文・書籍・記事

必読

Endo, H. & Fujioka, N. (2024). Value of Sport for Development and Peace initiative for citizens: An examination using the Contingent Valuation Method. *Journal of Sport for Development*. Retrieved from <https://jsfd.org/>

(なんでも帳)

大学教員になってから、実施したかったことのひとつとして、ゼミ生とともにタイやラオスでフィールドワークを行いました。短期間の滞在ではありますが、その経験が単なる一過性の学びで終わらないよう、成果を発表する場を大切にしたいと考えています。これまで論文発表なども行ってきましたが、もっと研究成果を共有できる場があればいいなど感じています。

特に、ゼミ生たちが自分の研究を発表できる機会が増えれば、彼らの成長をより実感できるはずです。

もし、若手の会の皆さんの中で、ゼミ生の成果発表の場に関する参考情報やアイデアがあれば、ぜひ教えてください！そして、もし「一緒にフィールドワークに行ってみたい！」という方がいれば、コラボのご相談も大歓迎です！



↑ ゼミで赴いたラオスの教員研修(左)と協力して下さった皆様(右)

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました！→ [メーリングリスト登録フォーム](https://forms.gle/zGMPdPq5fY3kcB5q2):

<https://forms.gle/zGMPdPq5fY3kcB5q2>

学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。

taikugakkaiwakate@gmail.com

